

第 44 回原子力委員会臨時会議議事録（案）

1. 日 時 1998 年 7 月 31 日（金）11:20～12:13

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 竹山委員長、藤家委員長代理、依田委員、遠藤委員、木元委員
（事務局等）科学技術庁
原子力局
青江局長、今村長官官房審議官、坂田政策課長
原子力調査室 板倉、村上、池亀
政策課 中川、坂本、北郷
立地地域対策室 星野
動力炉開発課 森口課長、増子、犬塚
廃棄物政策課 千原
通商産業省 資源エネルギー庁
原子力産業課 斎藤、前田
運輸省
運輸政策局技術安全課 高橋
吉鍾専門委員

4. 議 題

- （1）委員長代理の指名について
- （2）平成 11 年度原子力関係予算ヒアリングについて（科学技術庁及びその他の省庁（外務省、通商産業省を除く））
- （3）核燃料サイクル開発機構の業務のあり方について
- （4）その他

5. 配布資料

- 資料 1-1 平成 11 年度科学技術庁原子力関係予算概算要求の調整状況
資料 1-2 原子力関係事業の進捗状況
資料 1-3 平成 11 年度各省庁（科学技術庁、外務省、通商産業省を除く）
一般会計原子力関係予算総表
資料 2 核燃料サイクル開発機構の業務のあり方について（案）
資料 3 第 43 回原子力委員会定例会議議事録（案）

6. 審議事項

冒頭、竹山委員長より、総理から特に原子力について配慮するように指示を受けた旨の発言があった。

（1）委員長代理の指名について

- ・新委員長として、原子力に対する国民の不安感、不信感を解消することが重要であり、このために国民に原子力をもっと知ってもらわなければならない。各委員の御協力をお願いする。

との発言ののち、原子力委員会及び原子力安全委員会設置法第 4 条第 3 項の規定（委員長代理の指名）に基づき、原子力委員会委員長代理に藤家委員が、さらに、藤家委員長代理の海外出張等による不在の際の委員長代理には遠藤委員が指名された。

続いて、各委員より、

- ・総合的な科学技術である原子力を推進することは、原子力技術を構成する科学技術の水準向上にもつながり重要。原子力のエネルギー利用と同時に、放射線利用も多様な可能性があり、医療、農業、工業、生命科学などの分野における実用化を推進すべき。最善を尽くしたい。
- ・国内のみならず海外の諸情勢も見極めつつ原子力政策を考えていきたい。
- ・原子力は、技術的専門家のみならず一般国民においても非常に関心のある分野。一般国民の意見を原子力委員会に反映させるべく、努力する。

等の発言があった。

竹山委員長の退席後、藤家委員長代理により引き続き議事が進められた。

(2) 平成11年度原子力関係予算ヒアリング（科学技術庁及びその他の省庁（外務省、通商産業省を除く））

標記の件について、事務局より資料1-1、資料1-2、資料1-3に基づき説明があった。これに対し、

- ・国際協力はオールジャパンで考えるべきもの。受ける方にとって、科技庁、通産省の違いはないので、施策に重複や落ちがないよう各省庁間でよく協議して欲しい。広報事業も同じであり、両省庁に民間も加えて情報交換を行う場が必要。
- ・原子力広報の委託事業においては、効果を評価した上で予算要求の内容を考えるべき。これまでの成果として、例えば委託で作成したパンフ等の広報物を集められないか。集めると似た様なものが集まるのではないのか。

(科技庁)エネ庁との調整に努める。広報、試験研究についての評価委員会は設けている。

- ・しっかり評価をして欲しい。別途、報告して欲しい。

等の質疑応答及び委員の意見があった。

(3) 核燃料サイクル開発機構の業務のあり方について

標記の件について、事務局より資料2に基づき説明があった。これに対し、

- ・新機構の業務は、基盤的な研究も含まないと開発はうまくいかない。体質も変えていかないといけない。原子力委員会の意図が伝わるよう新機構と話し合いたい。
- ・原子力研究所、放医研と新機構との関係をどう位置付けかをきっちりさせることが必要。連携のあり方などその辺を明確にしないと新機構の使命が見えなくなる。機動的、柔軟的に研究開発が行える体制作りが必要。
- ・本資料は、委員会自らの検討をまとめつつ委員会の考えていることがまさに表現されているものであり、委員会の責任で行っている。核燃料サイクルは、従来のエネルギー論的な観点から、今後は環境論的な観点も大切。冷戦後は国際路線、核不拡散的な観点も必要となってきた。新機構の業務について、原子力委員会の考えについて理念的、概括的表現ができていると思う。これに基づき新機構の基本方針を作ってもらいたい。大事なことは、全体像と長期展望の中に、新しい研究の取り組み、役割分担を明確にし、総合的に対応していくこと。資料のうち、使命の部分は良い。目標は現段階での例という位置づけ。
- ・決定文を一般の人も見るのであれば、「である調」ではなく「ですます調」に変えてもう少し判り易くした方が良い。
- ・文章が長いと思う。

等の委員の意見があり、本件については、趣旨、中身は良いので、必要に応じ表現を見直しのうえ、来週火曜日に取りまとめることとなった。

(4) 事務局作成の資料3第43回原子力委員会定例会議議事録（案）については、コメントがあれば、後日、事務局に提出することとされた。